各企業等の社会貢献

増やせ雇用！減らせCO2！

「インカルシの森林」設置記念

渡辺組―植樹祭に60人

【網走発】㈱渡辺組（遠軽、渡辺博行社長）は二十二日、森林経営具体化の象徴となる「インカルシの森林（もり）」設置を記念して植樹祭を開いた。渡辺社長はじめ社員とその家族ら約六十人が参加。豊かな森林となるよう、道内人工林の代表的な樹種であるカラマツ、トドマツ、赤エゾマツの苗木のほか、彩を添える山桜を植えた。

同社は、ことし創業百十年を迎えるに当たり、同社を後世に引き継ぐことを目的に、森林経営を具体化。「環境にやさしく、地域に貢献する循環型の経営」を行うことにした。

これまで、三百㌶の森林を保有していたものの、環境に向けた取組や経営への有効活用は図られていなかった。森林経営の具体化に向けて、新たに四百八十㌶の森林を取得し、所有面積は七百八十㌶となり、同社の試算によると約九百㌧の二酸化炭素の吸収と蓄積が可能。

この大面積の森林を所有することによって、計画的な伐採ができ、製材原料となる丸太の木材加工業者への安定供給、清涼な水質の確保、環境維持のほか、造林業での雇用の創出が期待できることから、当面の所有面積を一千㌶とし、最終的には三千㌶を超える面積にしたいとしている。

「インカルシの森林（もり）」は、遠軽町見晴の所有森林内に設置。植樹祭の当日は、インカルシの森林に社員とその家族ら約六十人が集合。福浦啓二総務部長が〝インカルシ〟の意味や由来を説明したあと、渡辺社長があいさつ。「植林して五十年後には大きな木になる。木々はいい水を育み、渓流もよくなり、栄養豊かな水が海に流れ、魚もとれるようになるという、循環型の経営を目指したい」と事業の趣旨を説明し協力を求めた。

遠軽地区森林組合の職員から植樹の手順を聞いたあと、参加者はスコップを片手にポイントに移動。猛暑の中、渡辺社長も額の汗をぬぐいながら土を掘って、苗木を植えていた＝写真上＝。また、社員の子どもたちも「大きくなってね」と願いを込めながら、シャベルを使って丁寧に土をかけていた＝写真下＝。

作業は約一時間ほどで終了。このあと全員で昼食をとり、用意したおにぎりと豚汁を食べて疲れを癒した。

渡辺社長は「これまでの建築業は循環型になっていなかった」とし、生産する一方で「自然を元に戻すこと」の大切さを強調。「今回参加した子どもたちには、この桜が咲くたびに成長を喜び、自然に感謝する気持ちをもってほしい」と期待していた。また、今回植樹した山桜と同じ苗木を本社敷地内にも植え、「生長を見守っていく」ことにしている。

斜里川水系清流を守る会

美しい川 次世代に残す

「清流日本一にも輝いたこの水系環境を、次世代に残していくため積極的に清掃活動に取り組んでまいり

湧別建協が清掃ボランティア

人気観光地のごみ一掃

9年目の取組 16社参加

【網走発】湧別建設業協会（西村幸浩会長）は二十日、湧別町内の五鹿山公園へと続く町道五鹿山道路で清掃ボランティア活動を実施＝写真＝。「利用者が心地よく使えるように」と道路沿いに投げ捨てられたごみを一掃し、人気観光スポットの環境美化に努めた。

五鹿山公園は、夏場はオートキャンプやパークゴルフ、冬場はスキーなどが楽しめる、町民や近郊住民らにとって格好の憩いの場となっている。

清掃活動は旧上湧別建協が公共工事の閑散期に、社会貢献活動として平成二十年からスタートした恒例行事。町と合同で開催している取組もことしで九年目を迎えた。

当日は㈱西村組、㈱渡辺組、㈱渡辺興業、遠軽舗道㈱、㈱中川組など会員十六社、町の担当課から計四十人が参加した。

作業に先立ち、湧別町長の代理として住民税務課の松田茂満課長があいさつ。「皆さんのおかげで、年々ごみが減ってきている。町民の美化意識の向上にもなっている」と感謝の言葉を述べた。

このあと、西村組の高崎成人参与が、作業の流れや注意事項を説明し、集合場所の五鹿山スキー場駐車場から清掃活動がスタート。参加者は六班に分かれて五鹿山道路一・二㌔区間において、投げ捨てられた空き缶やペットボトル、弁当容器などを残さず拾い集めていた。